

# アメニティの機関紙

## 【巻頭言】

### 一歩一歩進める

船津美智子(福岡女学院大学)

本制度は西暦2000年、当時の佐藤方彦学会長、菊池安行副会長および石井照子委員長のもとで発足しました。私も担当理事として、空港で買い求めた梅ヶ枝餅を手みやげに、青葉学園短期大学の会合に度々出掛けたものです。その後、委員長は橋本修左、古賀俊策、山崎和彦の各先生方に引き継がれ、発展しつつ今日に至っています。

そして2008年度の合格者が発表されました。アメニティスペシャリストの中には、次にアメニティコーディネーターを目指し、新年度をスタートされる方がいらっしゃるかもしれません。

本資格の名称には新鮮な響きがあり、内容は企業にとって魅力的であるはずですが、資格を取得された皆さんは、このことをしっかり受け止め、アメニティの先駆者であるという自負を持つよう願っております。今後、面接試験を受けたり就職したりすると「これはどのような資格ですか」「何ができる資格ですか」といった質問に出会うことでしょう。アメニティとは何か。何ができるのか。日頃から自問し、あなたなりのきちんとした答えを持っておくことが大切です。もしも疑問や迷いが生じたら、学会誌を読んだり、学会主催の講習会や若手の会に参加したりしてみてください。活気あふれる先輩方の厳しくも暖かい雰囲気に触れることでしょう。それが楽しく、やみつきになったら、本物です。

現在、世界的不況にあります。しかし「この秋は雨か嵐かわからねども今日のつとめに田の草を取る(先々に不安があるとしても、いまできることを一歩一歩進める)」という姿勢が大切です。資格を取得されたことに自信を持って下さい。これからの活躍と発展を願ってやみません。

## 【指定校責任者挨拶】

### 「環境デザイン学科」の紹介

平林由果(金城学院大学)

金城学院大学/生活環境学部/環境デザイン学科は、家政学部/家政学科より再編され、2002年に発足しました。本学科では"人と環境へのやさしさ"の視点を大事にしながら、衣服・インテリア・生活空間・建築・まちづくりの各分野において、快適な環境づくりを提案し、実践していける学生を育成しています。

本学科は、3つの履修コースを設けています。「アパレル・ファッションコース」では、美しさと着心地の両面から衣服を追究するとともに、だれもが快適な衣生活が送れる社会の実現に寄与できる人材の育成を、「住宅・都市環境コース」では、住環境からまちづくりまでを文化・社会・経済・環境など広い視野から考え、だれもが暮らしやすい住空間、都市環境を創造できる人材育成をめざしています。2002年度にインテリア分野、生活環境・健康分野、アメニティ・ユニバーサルデザイン分野の授業を新たに展開し、「インテリア・生活アメニティコース」を新設しました。このコースでは、人の生活を総合的に捉え、インテリアとアメニティをキーワードに衣食住のあり方を追究します。本コースの新設と同時に、生理人類士認定制度における指定校に認定を頂きました。生活者それぞれのアメニティを尊重して、だれもが健康で快適な暮らしができるよう支援・指導できる人材の育成をめざしています。

「生理人類士」資格は、本学科の学生にぜひとも取得してほしい資格です。卒業後は、その成果を生かし、人と環境への思いやりを持ちながら、それぞれの職場で活躍してほしいです。今年、指定校となって初めて、4名の学生が資格試験に挑戦し合格しました。今後は「生理人類士」資格をめざす学生が増えてくれることを願っています。

## 【生理人類士の声・準1級】

### 2級から準1級へ

堀尾雅子（武蔵野大学人間関係学部）

私は大学に入る迄、アメニティ資格というものを全く知りませんでした。けれども、様々な科目を学ぶ中で、せっかく受けられるのだからという軽い気持ちからアメニティスペシャリスト（生理人類士2級）を受けました。その際、生理人類学は人類の歴史、文化にも及ぶ広範囲なものであり、環境との調和や適合を考え、人が快適に豊かに暮らすことを目指す学問だということが分かりました。電化製品や車などの生活用品にも、病院、学校などの施設にも生理人類学は活かされているということも分かりました。そして、あらゆる商品の開発や環境づくりにも貢献し、私達の生活を豊かにしていく重要な学問なんだという認識を得たことで、この学問に対して、より興味を持ったので、今回アメニティコーディネーター（生理人類士準1級）を受けました。そして、これからも生理人類学で培った視点を持ち続けて、日常生活の中でも活かしていきたいと思います。

## 【生理人類士の声・2級】

### 子供たちのために

夏目みつ子（武蔵野大学通信教育部）

この度、生理人類士2級の資格を取得することができました。私は公立の小中学校で事務職員として勤務する傍ら、通信制大学で心理学を学んでおり、大学を通じてこちらの学会と資格の存在を知りました。

入学を決めたきっかけは児童心理学に興味を持ったことからですが、職務上、教職員と児童生徒が毎日仕事や学習を行う場の環境作りにも大きく携わっています。限られた厳しい予算の中で、できる限り活動に適していて、且つ気持ちよく過ごせる環境を作ろうという努力はしていますが、学校現場はまだまだ快適とは言いがたい現状です。そんな中、生理人類学の専門的知識を身につけることで少しでも理想の環境に近づけることができればと願っています。

この資格を職務に具体的にどう生かしていくかは現在模索している最中ですが、未来を担う子どもたちのために役立てることができたら幸いです。いただいた資格に恥じないように今後も研鑽を努めてまいりたいと思います。

### 知識を深めて行きたい

青木 玲（武蔵野大学人間関係学部）

私は大学で環境について勉強しています。専攻がアメニティなので「アメニティ資格」という言葉に惹かれて試験を受けました。しかし、生理人類士という資格があることを、私は授業で先生からお話を聞くまで知りませんでした。私は、1年間生理学を学んで人間の身体機能と環境についていろいろなことを知りました。そして、知れば知るほど生理学全体に深く興味を抱くようになりました。

また、試験を目前にして、年に1度の機会というプレッシャーや慣れない資格試験への焦りもありましたが、受験勉強に集中することで、大学生として一歩成長できたとも思います。

私は生理人類士2級を取得しましたが、資格を得たことを機に今後は、生理人類学の知識をより深めていきたいです。そして、環境と人間の関わり方など環境心理を学ぶ上で大いに役立てたいと思います。

### 生理人類学を学んで

伊藤実穂（実践女子大学生活科学部）

本学科では3年前期に「生理人類学」、3年後期に「生理人類学実験」が開講されます。私はこれらを共に受講し、生理人類学という学問領域は、私たち人類に関わるあらゆる事を扱っており、とても重要であるということを知りました。

「生理人類学実験」におけるテーマは、環境評価、代謝量、生体電気、皮膚科学、皮膚温、衣服内気候、寒冷血管反応、暗順応などでした。特殊な装置に触れながら行った実験は、私にとって貴重な体験であり、講義ではよく分からなかった事について納得することができました。

そして今回、生理人類士資格試験に備え、テキストを用いた勉強会に参加したことにより、この学問の幅広さ、重要さ、面白さといったものに改めて気づきました。

今後、卒業論文制作にあたり、生理人類学領域に関する面白そうなテーマについて模索したいと思っています。

### 生理人類士2級の試験を終えて

久我麻美子(福岡女学院大学人間関係学部)

「生理人類学」という分野について、私は大学に入るまで聞いたことがありませんでした。しかし、大学で生理人類学の講義を受講していくなかで、人と密接に関係のあるこの生理人類学にとっても興味を持ちました。また、3年のゼミでは、生理人類学に関する題材を取り上げ、資料や論文を読む機会も多くなったことから、生理人類学という分野をより深く知りたいと思うようになりました。これらの思いから、きちんとした知識を身に付けようと考えましたので、今回生理人類士2級の検定を受けることにしました。

勉強していくなかで、生理人類学は私たちの日常の環境に深く関連しているのだと改めて感じました。そしてその適応という力に驚かされることもありました。しかし、人は快適というものを求め過ぎて、人間が本来持っていた適応能力を逆に低下させてしまっていることもあるという問題が起きていることにも気づくことができました。これらを改善させるためにも今後は生理人類学から見た人間にとっての本当の快適というものを追い求めていきたいと思っています。

### 新しい生活へ

小林美緒(長野県短期大学生生活環境専攻)

生理人類士(2級:アメニティスペシャリスト)という資格があることを、短大に入学して初めて知りました。また、受験に際して、私が所属している生活環境専攻は、取得した単位が反映される指定校に認定されていると聞き、学んだことの復習をする気持ちで受験しました。

しかし、テキストを開くと、これまで見たことのない用語が並び非常に戸惑いましたが、先生が試験対策の講義を開いてくださり、理解を深めることが出来ました。一看すると、どれも難しい内容ばかりですが、学んでいくうちに、私たち身体のおもしろみや、日常生活と身近な関わりがあることなのだと感じました。また、新たに知ることも多く、どんどん興味が湧いていきました。

生活環境専攻は、その名の通り「衣食住」を学ぶ専攻です。この資格試験をきっかけにして、改めて自分の身の回りの生活環境に目を向けることができました。この春、卒業し社会人として新たな生活がスタートします。今回学習したアメニティの知識を活かしていきたいと思っています。

### 人と環境に優しい学問

寺島千琴(金城学院大学生生活環境学部)

私は、衣環境を専攻しているため、「着心地の良い服で、快適にオシャレを楽しむにはどうしたらよいのか」ということについて研究をしています。そのため、生理人類学は私にとって魅力的で、必要不可欠な学問でした。勉強を進めていくなかで、人間にとってよりよい環境作りをするには、まず人間の体のつくりを理解して初めて、環境との関わりを考えなければならないことを実感しました。私達を取り巻く社会は絶えず変化し続けています。そのため、それに対応するべく私達の手でよりよい生活環境をつくりあげていきたいと思っています。そして、一人でも多くの方が不便なく、暮らしやすい環境で生活できるよう提案していけたらと感じています。

また、今回の受験は学内でできたため、緊張することなく落ち着いた気持ちで受験することができ、生理人類学を身近に感じることもできました。これからも生理人類学が多くの人に広まっていくと嬉しいです。

### 【2008年度各資格取得者氏名】

< 1級 > 受験者なし

< 準1級 > 堀尾雅子 杉山民生 山本百合女

南幸恵 高倉文彦 田代翠 波田野聡子  
小嶋拓人 藤井亜也(以上9名)  
<2級> 芳林淳一 林田一子 夏目みつ子  
渋下友貴子 大河尚子 岡崎祐子 萱原千佳  
椿原美紀 吉井澄子 山口幸弘 内田千夏  
古川壯紀 佐々木啓子 溝渕雅子 松岡智世  
重野説子 渡辺一成 清谷香波 中村亜由美  
福井聡子 飯尾知美 鈴木朋子 林容子  
大原さつき 柴田憲一 佐藤昌美 牧坂麻依子  
岡本光世 小野祐太 新妻慎也 生沼貴基  
比気雄太 坂間茜 本保里紗 笠原千晴  
羽深正明 市村拓磨 川上詩織 浅野菜穂  
矢澤さとき 白岩宣子 清水智美 市川加成江  
青木香奈 白井莉々奈 青木玲 増田知紗  
赤塚恵理 伊藤実穂 大井美由貴 緒方美穂  
木村恭子 汐先理恵 宗真理子 角田祐帆  
西宮皓子 丸山裕子 村井彩乃 西村亜佑子  
大淵絵里伊 福田雅子 頼永真由美 高橋志奈  
米森由希 久我麻美子 小川原芳奈 工藤もとか  
小金井美穂 小林美緒 小林優理子 下島恵美  
田中あゆみ 中沢恵美 深井詩穂 富田麻衣  
寺島千琴 黒野みなみ 山田有子(以上78名)

### 【2008年度表彰者氏名】

<準1級> 小嶋拓人 堀尾雅子 南幸恵(以上武蔵野大学)  
<2級> 青木玲 夏目みつ子 古川壯紀  
本保里紗(以上武蔵野大学) 小川はる賀(実践女子大学) 小林優理子(長野県短期大学)  
寺島千琴(金城学院大学) 米森由希(福岡女学院大学)

### 【2009年度資格認定ポスター】

武蔵野大学人間関係学部生理人類学教室がデザインを担当しました。

### 【生理人類士資格について】

#### 概要

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決等に携わ

り得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。本資格には、(1)生理人類士1級(アメニティプランナー)、(2)生理人類士準1級(アメニティコーディネーター)、(3)生理人類士2級(アメニティスペシャリスト)の3種があります。

(1)と(2)は日本生理人類学会員の内、企業や大学等において豊富な実績のある方、あるいは現在活躍中の方を対象としています。(3)は学会員に限ることなく、大学生や社会人など広く対象としています。

本制度には指定校制度があります。これに認定されると、受験者に特典が与えられます。

受験資格、受験申請、指定校認定申請等の詳細については学会ホームページを御覧ください。

#### 受験料

1級:1万5千円、準1級および2級:指定校に所属する者1万円、指定校に所属しない者1万2千円(自然災害、事故等の正当な理由により受験できなかった場合は5千円を返却)。

#### テキスト「生理人類士入門」

本書は計30章172頁から成る、生理人類学を学ぶ際の恰好のテキストです。試験の予想問題も掲載され、受験者への便宜を図っています。

準1級および2級の受験者には、指定校責任者や事務局を通じて配布します(代金は受験料に含まれます)。また、受験しない方も入手できます(手数料込み1冊2,500円、詳細は事務局まで)。

#### 2009年度試験日程

##### 1) 受験申込み期間

10月1日(木)~10月10日(土)

##### 2) 準1級、2級試験:11月28日(土)

##### 3) 1級試験:11月29日(日)

<問合せ先>

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株)国際文献印刷社内 日本生理人類学会

生理人類士認定委員会事務局

電話 03-5389-6218 FAX 03-3368-2822

Eメール jspa-post@bunken.co.jp

学会ホームページ <http://www.jspa.net/>